

「令和6年度 第2回 地下水マネジメント研究会」の開催（R6.7.5）

- 「地下水マネジメント推進プラットフォーム」の活動の一環として、令和6年7月5日に「第2回 地下水マネジメント研究会」を開催。
- 令和6年能登半島地震発災後の水源確保等の取組を紹介するとともに、専門家による現地調査報告を通じて、地方公共団体の担当者が、今後の地域防災力の向上に向け、大規模時災害時の代替水源としての地下水活用について考えるきっかけを提供。
- 地方公共団体職員を中心に、地方公共団体、関係機関、民間企業等の地下水担当者 約450人が参加。

I 開催概要

～ 大規模災害時の地下水活用を考える ～

1. 日 時 : 令和6年7月5日（金）13:30～15:00
2. 方 法 : WEB形式（Zoom）
3. 主 催 : 内閣官房水循環政策本部事務局
(水管理・国土保全局 水資源部 水資源政策課)

4. 議事次第

取組事例紹介

- ・ 令和6年能登半島地震と水源確保への取組
【内閣官房水循環政策本部事務局】
- ・ 令和6年能登半島地震における水道等に関する県の取組について【石川県生活環境部環境政策課】
- ・ 金沢市における災害時協力井戸の取組【金沢市危機管理課】
- ・ 令和6年能登半島地震を踏まえた有効な新技術及び方策
【内閣府（防災担当）】

現地調査報告

- ・ 令和6年能登半島地震における災害時地下水利用 【大阪公立大学大学現代システム科学域 遠藤崇浩 教授】

5. 参加者：約450名（市区町村、都道府県、国関係機関（農林水産省、経済産業省、環境省、農政局、地方整備局）、研究機関、民間企業、マスコミ）

II 参加者からの感想

- ・ 能登半島地震を受けて防災井戸の取組の開始を検討しているが、取組事例や調査報告を聞き、具体的な取組のイメージを持つことが出来た。
- ・ 災害時の井戸（地下水）活用の有用性や課題、活用可能な新技術について情報収集することができ、大変参考になった。
- ・ 遠藤教授の現地調査は、自ら被災地を歩き現地調査をされているため、被災地の生の声が反映されており、大変興味深い報告だった。
- ・ 発災時に実際に現場で対応された石川県及び金沢市からの説明は、当時の緊張感を感じることができ、非常に参考になった。



大阪公立大学 遠藤崇浩教授を迎え
研究会を開催



大阪公立大学 遠藤崇浩教授による「現地調査報告」



「取組事例紹介」【石川県生活環境課】



「取組事例紹介」【金沢市危機管理課】